

# 感謝の意味で使われる詫び表現の選択メカニズム

—Coulmas(1981)のindebtedness「借り」の概念からの社会言語学的展開—

三宅 和子

## 要 旨

「すみません」のように、もともと「詫び」の言語表現だったものが感謝の意味で使われる現象が日本語に著しいことが指摘されている。この現象の解明に、言語学、人類学、心理学などから考察がなされてきた。本稿では、これらの文献を概観したうえで、indebtedness「借り」の有無が感謝と詫びの心理を左右すると説いたCoulmas(1981)の論考を考察する。そして、その議論を参考に行った日本人122名、イギリス人101名に対するアンケート調査の結果から、詫び表現がどのような条件において感謝の意味で使われるかの解明をおこなう。

【キーワード】 感謝 詫び 決まり文句 社会規範 言語行動

## 1. はじめに

「感謝」と「詫び」の言語表現は、外国人が日本に降り立ったとき真っ先に覚えなければならない基本的語句のひとつであろう。しかし、それぞれの言語に「感謝」や「詫び」の表現はあるとしても、どのような場面でどのように使われるかは、その文化や社会の規範によって少しずつ違う。外国人が母語で使う「感謝」と「詫び」の言語表現を直訳的に日本語に見つけて使うのは、危険であることが多い。このような表現は日常的に頻繁に使われ、しかもその社会の「しきたり」に深く根ざしているため、当該場面で当然あるべき言語表現が使われなかったり違っていたりすると、思わぬ誤解や不快感を生み出すこととなる。

日本語の「感謝」と「詫び」の言語表現のなかでも、「すみません」は、とくにその用途が広範にわたり、目につく表現である。「すみません」は詫びの意味はもとより、感謝の意味でもしばしば使われる。また、呼びかけやたんなるあいさつとしても多用されている。このような現象はいつごろからどのような理由で起こったのであろうか。そして、どのようなときに「感謝」の意味をもち、どのようなときに「詫び」の意味をもつのだろうか。

## 2. 「感謝」と「詫び」研究の流れ

詫び表現が感謝の意味で使われる現象に関しては、少なからぬ研究者の興味をひいてきた。が、この現象は昨今に始まったものではない。西村啓子(1981)、山内良子(1986)は「すみません」を

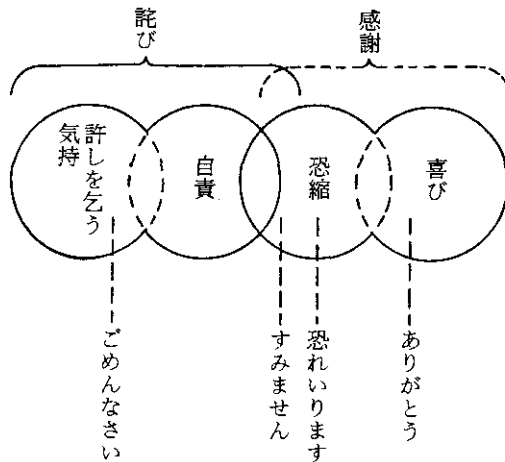
中心とする「謝罪の言葉」の歴史をたどっている。これらによると、もともと詫び表現として使われていた言葉が感謝の意味でも使われる現象は、中世にまでさかのぼってみることができる。西村(1981)は狂言、洒落本、滑稽本、円朝全集、明治・大正・昭和の小説戯曲を調べ、「すみません」ほかの謝罪表現が感謝の意味で使われた時期を調べた。それによると、「すみません」「恐れ入ります」が幕末から明治初期にかけて初めて現れた。それまでの時期は、中世の狂言によく現れる「慮外」、近世には「はばかり」が感謝と謝罪の2つの意味を表していた(西村1981:79)。

一つの言葉が感謝も謝罪も表現する。中世後期は「慮外」、江戸時代は「はばかり」、明治は「すみません」「恐れ入ります」、大正・昭和は「すみません」がそれぞれ代表的である。

このように、もともと謝罪の意味で使われていた表現が感謝の意味でも使われた歴史は古い。現代でも、「すみません」のほかに、慣用度は落ちるものの、「もうしわけありません」、「ごめんなさい」、「わるい」などがその傾向を示している<sup>2)</sup>。この現象はいったい何を意味するのであろうか。どんな要因がこの現象を生み出すのであろうか。

佐久間勝彦(1983)はさまざまな「感謝」と「詫び」の言語表現の使い分けを、話し手の心理的側面から説明しようとした。

図1. 感謝と詫びの表現形式と話し手の心理との関係(佐久間 1983:63)



この図によると、「ごめんなさい」から「ありがとう」までのさまざまな言語表現は、詫びの気持ちから感謝の気持ちに到る連続性のある心理を言語で表現したものということになる。「許しをこころい」や「自責」、「恐縮」、「喜び」などの心理がそれぞれ少しずつオーバーラップして続き、その気持ちに従い、言語表現は選ばれていく。

佐久間はまた、「ありがとう」と「すみません」の違いについて、

もともと前者（「ありがとう」を指す：筆者注）が自己の〈喜び〉の表現（自己指向的）であるのに対し、後者（「すみません」を指す：筆者注）が相手（他人）に対する〈恐縮の念〉の表現（他人指向的）である...（後略）

とし、相手を思いやることが恐縮の念につながり、「すみません」の使用を生む（下線筆者）と説明している。

佐久間のほか、詫び表現の感謝の意味での用法を二者間の関係の不均衡の補正／是正と結びつけて考えているものに金田一秀穂(1987)、土居健男(1975)がある。

金田一(1987)は、「ありがとう」や「すみません」などの感謝表現、詫び表現をまとめて「補償のあいさつ」とみなし、「ある社会的な関係にあるもの同士の間で、何らかの不均衡が、どちらかの責任において、生じてしまった時、それを補正するものである」（1987：78-79）と定義している。これは、Goffman(1971)のいう“remedial interchanges”、または“remedial rituals”と共通点をもつもので、感謝表現も詫び表現をも同時に説明しようとしている<sup>3)</sup>。そして、「すみません」が感謝や依頼として使われるとき、「原行為が、相手に不利益を与えたと同時に、自分にとっては利益をもたらすものであった、ということも意味してしまうように思われる。」と述べている。土居(1975：27-28)は、「すまない」について日本人の甘えと関連づけて次のように述べている。

なぜ日本人が親切の行為に対し単純に感謝するのでは足れりとせず、相手の迷惑を想像して詫びねばならぬのかということである。それは詫びないと、相手が非礼と取りはしないか、その結果相手の好意を失いたくないかと恐れるからである。したがって相手の好意を失いたくないので、そして今後も未永く甘えさせて欲しいと思うので、日本人は「すまない」という言葉を頻発すると考えられるのである。

そしてさらに、「すまない」という表現を使う心理について日本人の罪と恥の感覚とも関連させて考察している。

「すまない」の使い方について関心を持ってきたのは、日本人だけではない。Benedict(1985)も、この言葉の意味をたどり、義理と恩と関連づけながらその使い方を考察している。それによると、「義理」とは恩を受けた分だけ返すことであり、「義務」とはその恩を無限に返すことである。「すまない」という感覚は恩を返しきっていない状態に対して自分の気持ちが「済まない」のであるという解釈をしている<sup>4)</sup>。

金田一春彦(1988)もこの解釈を支持しながら、「他人にものをもらうと、たいへん日本人は苦しむのである...（中略）...日本の代表的なおとぎ話といえば〈桃太郎〉〈花咲爺〉〈浦島太郎〉などであるが、これらはいずれも報恩が含まれており...」といい、恩の精神や借りを返すことが日々重要視されていることを指摘している。

このように、「すまない」「すみません」に関する言語学、心理学、文化人類学などからの研究を概観すると、そのなかに共通する概念が浮かび上がってくることに気づく。それは、「恩」、「好意」、「負担」、「利益」、「不利益」、「返済」といったものである。これらの概念がどのように関連し合って働いたとき、詫び表現の感謝の意味での使用が生まれるのであろうか。

### 3. 「すみません」が使えない場面

「すみません」がいかに便利でも、使えない場合がある。たとえば「おめでとう」などの祝福に対してや、「ごしゅうしょうさまです」のようなお悔やみに対して、「すてきな御主人ですね」などの誉めに対しては「すみません」は使えない。また、店員は買い物客から支払いを受けて見送るとき「すみませんでした」とはいえない。これらの場合はみな「ありがとうございます」などの感謝表現を使うであろう。

このように、「すみません」が使えない場合を考えると、感謝する相手に負担なり、不利益がまったくかかっていないと解釈される場面であることがわかる。買物は客に負担や不利益がかかる現象かも知れないが、店員はあくまでも、それを負担と認めるわけにはいかず、買物は相手の意志、好意からなされたと解釈すべき立場にいる。「すみません」をはじめとする詫び表現が感謝の意味で使われるのは、相手に負担がかかっていると話し手が解釈する場面に限っていることが考えられる。

「聞き手の負担や不利益で話し手が利益をえた」という考え方と、「聞き手の好意で話し手が利益を受けた」という考え方には類似点がある。聞き手の行動を聞き手の負担としてとらえるのか、好意としてとらえるのかは、あくまでも話し手の解釈の問題だからである。日本人が詫び表現を感謝の意味で多用する背景には、人の好意に対する解釈の仕方、さらには、どう解釈した言語表現をとるべきかという社会的規範とでもいうものが存在しているのではないだろうか。そしてそれは他の言語の母語話者の解釈のしかた、社会的規範とは同じではないのである。Coulmas(1981)は、日本人が英語をはじめとするヨーロッパ言語を学習する際、感謝表現が当然期待される場面で詫び表現を頻用すると述べているが、これは日本語の詫び表現を感謝の意味で使う慣習をそのまま英語にもち込んだ結果であり、社会語用論的トランスファー(Sociopragmatic transpher)といえよう。

### 4. 「感謝」と「詫び」の心理的接点：利益と負担

とはいえ、相手の好意を負担ではないかと心配するような感覚は、ひとり日本語に特徴的なものとはいえない。ほかの言語でもこのような感覚の表現はあるはずである。たとえば、大学生の子供が何かの理由でお金が足りなくなっているのを察して、父か母がお小遣いをくれたと仮定しよう。そのとき、大学生が父母にいう言葉として、

(日本語)

ごめんなさい。ありがとう。

(英語)

Oh Mum. I hate to rely on you for money.

Thanks ever so much.

ということが可能である<sup>9)</sup>。日本語にも英語にも、感謝とともに自責の念や相手の負担を気づかう気持ちが含まれている。このように、感謝と詫びとのつながりをもった心の動きは日本人に特有のものではなく、他の言語使用者にもみられる。従って、手続きとしてまず、感謝と詫びの入り交じる心理の説明が必要となる。その後、日本語の言語表現の特徴を考えることとする。

Coulmas(1981)は「感謝」と「詫び」の相互関連性について大変示唆に富む考察をおこなっている。欧米人は「感謝」と「詫び」が相互に関連しているとは普通考えないが、いくつかの共通点がみられる。たとえば、2者ともに日常的にたいへん頻繁に必要とされる言語行動であり、その社会の規範や価値観に強く縛られていて、ポライトネス (Politeness) の観点からたいへんに重要な役割を担っている、というのである。また、「感謝」と「詫び」への応答として、聞き手が発する発話は、しばしば表現が同じである。このことは、「感謝」と「詫び」の間に、なんらかの心理的つながりが存在することを示しているというのである。

A : Thanks a lot.

B : Not at all.

A : I'm sorry.

B : Not at all.

A : Merci beaucoup.

B : Pas de quoi.

A : Pardon.

B : Pas de quoi.

A : ありがとうございます。

B : いいえ、どういたしまして。

A : どうもすみません。

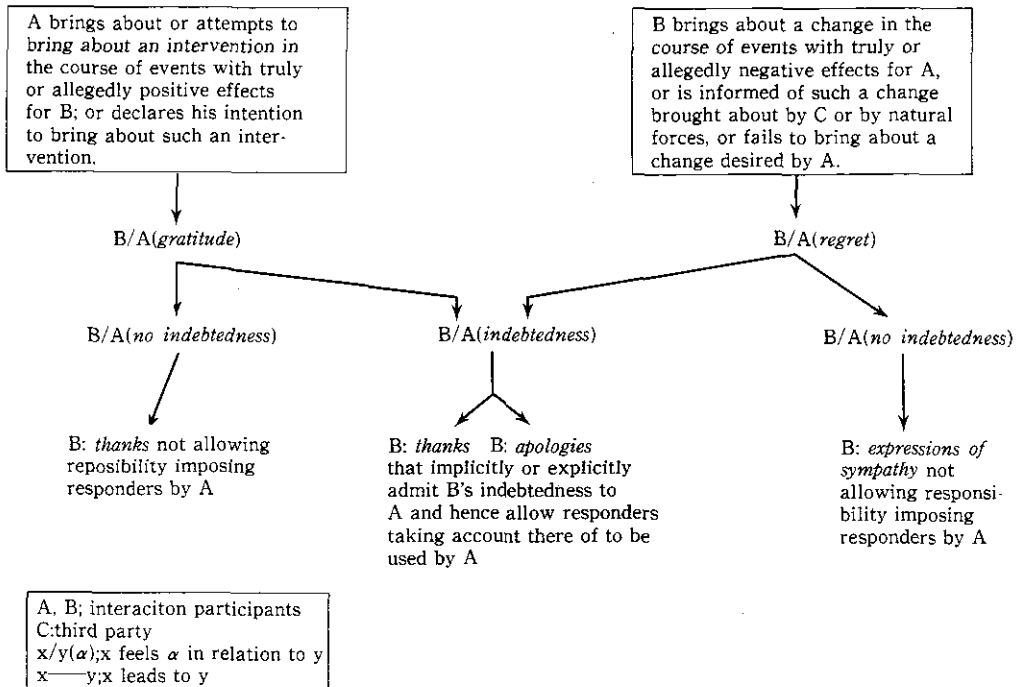
B : いいえ、どういたしまして。

Coulmas はさらに、「感謝」と「詫び」の言語表現の裏にある心理的つながりを“indebtedness”「借り」<sup>9)</sup>の概念で図2のように説明しようとした。

ここでは感謝の感覚の基本として“object of gratitude”があり、詫びの感覚の基本として、“object of regret”があることが提示されている。そして“object of gratitude”があっても“indebtedness”（「借り」があるという気持ち）がない場合、Bの話し手は感謝表現を使ってAに感謝する。Aはそれに対して応答する必要がない(図の下部左側)。祝福や誉めなどがこの典型的なものであろう(たとえば、A : Congratulations! B : Oh, Thank you. A : 応答なし)。しかし、感謝の感覚のなかに“indebtedness”の要素があると、話し手Bは感謝の表現とともに、Aに対して「借り」のあることを認める表現をしたり、表現しないまでも心のなかで認識する(図の

下部中央の左)。“indebtedness”は“object of regret”があるときにも感じられる。その場合、Bの話手は詫びの表現とともに「借り」のあることを認める表現をしたり、表現をしないまでも心のなかで認識する(下部中央の右)。「借り」の感覚を含む「感謝」や「詫び」の場合は、Aの応答も必要とする。前述した、感謝や詫びの表現に対する共通の応答パターンは、この図から説明できる。

図2。「感謝」と「詫び」の心理的つながり (Coulmas 1981: 80より)



いっぽう、“object of regret”があっても“indebtedness”の感覚がない場合は“sympathy”に限りなく近くなるという。たとえば、人の死を聞き“I’m sorry”というような例がこの典型であろう。この場合にも、Aの応答は要求されない(図の下部右側)。

Coulmas(1981)は、感謝と詫びの感覚が交わる接点を“indebtedness”という概念で説明し、この関係が言語に普遍的なものであるとした。この“indebtedness”の概念は、日本の研究者たちがそれぞれに取り上げていた恩、好意、負担、利益、不利益、返済といった概念と深い関連があると思われる。“indebtedness”とは、誰かに借りがあり、それを返さなければならないという気持ちである。相手の好意によって自分が利益を得た場合にも、相手の負担や不利益で自分が利益を得た場合にも、恩や借りを感じる。どちらの場合も返済しなければ、もしくは返済したいという気持ちがともなう。Coulmas(1981)をはじめとする日本内外の研究は、「感謝と詫びの感覚には

接点があり、それは利益や負担という概念でつながっている」という考え方としてまとめることができよう。

しかし、どんな場合にでも相手の負担を心配したり、借りの感覚を強くもったりするわけではない。どんな場合にどんな相手に対して、このような心理におかれるのであろう。あるいはこのような姿勢や言語表現が期待されるのであろうか。このことに関してはもう一步、探求の歩を進めなければならない。

## 5. 詫び表現選択のメカニズム

筆者は1991年に「感謝」と「詫び」に関する日・英・米の多面的調査をおこなったが<sup>7)</sup>、そのなかの日・英の結果から、この問題に関する少なからぬ知見をえた。

この調査は、感謝と詫びの言語表現を誘発しそうな36場面を設定し、被験者にそれぞれの場面でどのような言語表現を使うか、どのような気持ちをもつかを聞いたものである。日本人122名、イギリス人101名の青年層から得たアンケートの解答を分析し、これらの場面での被験者の気持ちと言語表現の関係を調べた。36場面は、6人の親・疎の違いのある相手に、6種類の感謝や詫びを感じさせるような場面を設定した（資料1参照）。

〈相手〉

指導教官（指教）\*、父、母、男友達（男友）、女友達（女友）、見知らぬ人（未知）

〈場面〉

- (1) 自分の強い利益や喜びになることを相手が好意でしてくれた
- (2) 自分の軽い利益や喜びになることを相手が好意でしてくれた
- (3) 人間関係を保つために当然と思われる親切や、職務としてのサービスを受けた
- (4) 相手の軽い負担や迷惑になることを自分がした
- (5) 相手の強い負担や迷惑になることを自分がした
- (6) 相手の負担や迷惑になることを自分が頼むか相手が好意でやってくれた

\*以下同様に略す

アンケートでは、セクション1「36場面でどのような言語表現を使うか」とセクション2「どのような気持ち（心理）をもつか」を別々に聞き、セクション1は自由回答、セクション2は以下のA-Fのなかから自分の気持ちにいちばん近いものを選択する形にした。

A=強い感謝の気持ち

B=やや感謝の気持ち

C=とくに感謝や詫びの気持ちはないが、あいさつとしてなにか表したい

D = やや詫びの気持ち

E = 強い詫びの気持ち

F = その他

その結果、同じ36場面に身をおいた場合でも、日本人とイギリス人では、気持ちのもちかたにかなりの違いがあることが分かった。まず、被験者が選んだ選択肢を集計し、回答の70%を占める選択肢がその場面の心理を表すと考えた。A、Bの選択肢を選んだ回答が70%以上の場面を感謝心理場面、D、Eを選んだ場面を詫び心理場面、Cを選んだ回答が70%以上のものをあいさつ心理場面、AかBとDかEの感謝と詫びの両方を選んだ回答がほぼ同数の場面を分散心理場面とした。表1は、この場面数を日本語と英語で比べたものであるが、日本人が詫び心理場面ととらえる場面がイギリス人のほぼ2倍あることが分かる。反対に、あいさつ心理場面と考えている場面が、イギリス人は日本人の2倍以上あることが特徴的である。

表1. 心理的側面からとらえた36場面の種類比較

	日本語	英語
感謝心理場面	17	16
詫び心理場面	11	6
あいさつ心理場面	6	13
分散心理場面	2	1
合計	36	36

数字：場面数

表2. 36場面で選ばれた心理選択肢の総数比較

(A) 強い感謝... 日本語 > 英語 ( $P < 0.01$ )
(B) やや感謝... 日本語 < 英語 ( $P < 0.01$ )
(C) あいさつ... 日本語 < 英語 ( $P < 0.001$ )
(D) やや詫び... 日本語 = 英語 (有意差なし)
(E) 強い詫び... 日本語 < 英語 ( $P < 0.001$ )
(G) 分散..... 日本語 = 英語 (有意為なし)



また、表2は36場面全体で選ばれた心理選択肢の総数を比較しているが、これによると、日本人は全体的に、強い感謝や詫びの気持ちをもつことが多く、逆に、イギリス人はあいさつ程度に何か相手に言うという場面の受け取り方が多いことが分かる。また、感謝と詫びの気持ちをもつこと（分散心理）は、日本人の方が多少多いが、有意差として現れなかった。

次に、どのような心理のとき、どのような言語表現を使うかの調査を分析した結果を表3に示す。ここでいう感謝表現、詫び表現は前述したように慣用的な表現だけを回答のなかから抽出したものである。回答に現れた全慣用表現のリストは、資料2を参照のこと。

イギリス人は感謝心理のときは感謝表現、感謝寄りのあいさつ心理のときは感謝表現、詫び寄りのあいさつ心理のときは詫び表現、詫び心理のときは詫び表現と、いわば言動が一致している。これに対して、日本人は詫び心理のときには詫び表現を使うが、感謝心理のときも詫び表現がかなり使われ、感謝と詫びが入り交じった心理のときには詫び表現が多用されることが分かった。

表3. どの心理のときどの言語表現か

	心理	表現
英語	感謝心理	感謝表現
	感謝寄りのあいさつ心理	感謝表現
	詫び寄りのあいさつ心理	詫び表現
	詫び心理	詫び表現
	感謝と詫び心理	感謝／詫び／感謝+詫び表現
日本語	感謝心理	感謝表現／詫び表現
	感謝寄りのあいさつ心理	感謝表現
	詫び寄りのあいさつ心理	(場面、表現ともなし)
	詫び心理	詫び表現
	感謝と詫び心理	詫び表現の多用

従って、この調査でも、一般にいわれているように、日本人の詫び表現の多用が認められたことになる。それでは、日本語の詫び表現はどのような条件（どんな相手でどんな状況）のとき、特に著しく使われるのだろうか。詫び心理のときに詫び表現を使うのはよしとして、詫び心理以外のときに詫び表現が多用される場面をくわしく調べると、表4のようになる。

表4. 詫び表現が顕著に現れる場面

心理場面	相手：場面（表現出現数）
感謝心理の場面  感謝寄りのあいさつ心理の場面 感謝と詫び心理の場面	★指教：論文コピー（76-22-23）*
	★指教：お茶入れる（36-64-3）
	★未知：お金拾う（16-64-42） 未知：カメラの情報（86-21-7） 男友：ノート貸し（78-18-15） 女友：ノート貸し（87-13-13） 父：お小遣い（65-17-10） 母：お小遣い（70-18-10）
	★指教：エレベーター（22-81-3）
	★指教：テーマ変更（6-104-9）
	★指教：締め切り延長（27-72-16）

\* 左から順に感謝表現，詫び表現，感謝表現+詫び表現の出現数を示す。以下同じ

★は詫び表現が特に著しく使われた場面を示す

この結果から顕著なように、詫び表現が詫び心理以外の場面で使われる現象は、とくに相手が指導教官のときが多く、次に未知の相手になっている。もともとの場面設定が他の相手に対してのものより負担やめいわくの度合いが強かったことも考えられるが、「お茶を入れる」や「エレベーターのボタンを押してくれる」などは、相手の負担がそれほど大きいとは思われない。従って、指導教官や未知の人に対して「すみません」をはじめとする詫び表現が多く使われるということは、次のことを意味すると考えられる。

詫び表現が選択される決定要素として、

(1) 目上・目下／親・疎の差

(2) 相手の負担の軽重、自分の利益の大小、借りの有無

があり、(1)は(2)より優先される。

いいかえると、詫び表現の選択には、今まで考えられていたような相手の負担の軽重、自分の利益の大小、借りの有無などが決定要素として関係してはいるが、それよりも重要なものとして、相手が自分の目上であるか目下であるか、親密な関係であるか疎遠な関係であるかという要素が

関係している。このことは、日本語の詫び表現の選択は、社会的規範、社会的ルールにきわめて強く支配された現象であることを示しているといえよう。

いっぽう、英語では、詫び心理場面以外で詫び表現が多く使われる場合は、感謝と詫び心理の場面のみ（指教 テーマ変更 (29-30-19)）で、それ以外は心理選択肢をよく反映した言語表現となっていた。このことは、英語での詫び表現の選択が(2)の相手の負担の軽重、自分の利益の大小、借りの有無に強く左右されていることを物語っている。いいかえれば、英語の場合、詫び表現の選択はストラテジーの問題として議論されるのが適当な現象だといえることができる。

## 6. まとめ

本稿は「感謝」と「詫び」の言語行動に潜む心理的接点と言語表現の関係を探った。理論的背景としてこれまでの研究を概観し、Coulmas(1981)の“indebtedness”「借り」の概念と結びつけて「利益」「負担」「借り」などの感覚が「感謝」と「詫び」の言語表現選択の重要な役割を担っていると考えた。そして、これらのキーワードを手がかりに作成したアンケート調査から、日本語の詫び表現が感謝の意味で使われる現象の解明を試みた。結論として、これまでいわれていたように、相手の負担の軽重、自分の利益の大小、借りの有無などが詫び表現選択に大きな役割を果たすものの、それ以上に重要な要素として、相手との上下関係、親疎関係があることが分かった。このことは、英語を中心に論じた Coulmas(1981)の議論がある程度有効であるとともに、それよりも強制力のある社会的ルールが言語表現の選択を支配していることを示唆しているといえる。

このように、「感謝」と「詫び」のような日常生活に深く結びついた言語行動には、その社会や文化を背景とした考え方や規範が大きく反映している。言語を知るということは、このような社会的文化的側面の理解をも含むものでなければならないであろう。日本語教育にも、このような観点からの研究が、ますます求められていくのではないだろうか。

## 注

- 1) 何が詫びの言語表現かを定義するのは難しい。ここでは「もともと詫びの意味で使われた慣用的表現で、現在でもその意味を強く残しているもの」という緩やかな規定をせざるをえない。本稿で主にとりあげる詫び表現は、後述するアンケート調査回答に現れた「もうしわけありません」、「すみ (い) ません」、「ごめんなさい」、「わるい」と、それらが変形したと思われるバリエーション（たとえば「どうもすみません」、「たいへんもうしわけありません」など）である。なお、「お許してください」、「失礼しました」などは、一般に詫び表現と考えられていても、本稿の考察の対象からはずしてある。これは、今回のアンケートの回答にはほとんど現れなかったためと、使われる状況が限られた表現のひとつと考えるからである。これらの表現を含む感謝、詫びそれぞれの言語表現の研究には、発話行為理論からの分析がある（山梨正明(1986)、中田智子(1989)、熊取谷哲夫(1990)）。

なお、本稿でいう感謝表現、詫び表現は、みな、慣用的に使われているものをさす。実際の回答には慣用表現のほかに、いろいろな表現が加わってひとつの回答となっていたものも多い。

(例) ありがとう。おいしそうだね。

慣用表現の定義としては、

(1)構成要素の語彙的な意味からはなれてひとつの表現として定着している

(2)1回答に独立して現れ得る

(3)出現率が高い

の3条件を満たしたものとした。

- 2) これらの表現は、今回の調査において、感謝の気持ちをもつと回答した場面でかなり頻繁に使われていた。
- 3) Goffman(1971)は、あいさつとしての“greetings, farewells”などを“supportive rituals”、過失に関する“accounts, apologies, requests”を“remedial rituals”と考えている。
- 4) 「すまない」の元来の意味については、このほか、山内(1986)、柳田国男(1969)、土居(1975)、佐々木智宏(1989)などで考察されている。
- 5) この例文は、筆者が1991年に行った「感謝」と「詫び」に関するアンケート調査の回答に現れたものである。アンケートの内容、回答例については参考文献10を参照。
- 6) “indebtedness”は日本語に訳しにくい言葉である。「恩」「恩恵」なども考えられるが、Coulmasは詫びの場合にも“indebtedness”を使っているため、ここでは、「借り」と訳すことにした。なお、“indebtedness”に関して Random House Dictionary of the English Language(1987)と Collins COBUILD English Language Dictionary(1987)には、
  - 1.何かの好意に対して借りがある
  - 2.お金の借りがあるの2種類しかのせていないが、2.を拡大解釈すると、誰かの不都合を解消しなければならない義務(借り)があるという意味になり、詫びの状況にも使える。
- 7) 「感謝」と「詫び」に関するアンケート調査で、有効回答として、日本人122名、イギリス人101名、アメリカ人49名を選び、分析した。本稿は、この調査のなかの「感謝」と「詫び」の心理的接点にのみ焦点を当てて考察したものである。日本人とイギリス人の総合的比較結果は、参考文献10に詳しい。また、イギリス人の一部(54名)とアメリカ人49名の比較については参考文献11を参照のこと。

## 参考文献

1. 金田一春彦 (1988)『日本語』(上)(下) 岩波新書2, 3 岩波書店
2. 金田一秀穂 (1987)「お礼とお詫びの言葉」『言語』第16巻4月号 大修館
3. 熊取谷哲夫 (1990)「日本語の〈感謝〉の表現交替現象とその社会言語学的モデル」  
『表現研究』第52号 表現学会
4. 佐久間勝彦 (1983)「感謝と詫び」『話しことばの表現』 講座日本語の表現3 水谷修編  
筑摩書房
5. 佐々木智宏 (1989)「現代語における〈すみません〉の位置」昭和63年度筑波大学卒業論文
6. 土居健男 (1975)「『甘え』の構造」 弘文堂
7. 中田智子 (1989)「発話行為としての陳謝と感謝」『日本語教育』68号 日本語教育学会
8. 西村啓子 (1981)「感謝と謝罪の言葉における〈すみません〉の位置」『日本文学ノート』  
第16号 宮城学院女子大学日本文学会
9. 水谷修 (1979)『日本語の生態』創拓社
10. 三宅和子 (1992 a)「〈感謝〉と〈詫び〉の言語行動：日英比較－日本人とイギリス人の大  
学生の言語調査を中心に－」平成3年度筑波大学大学院修士論文
11. 三宅和子 (1992 b)「〈感謝〉と〈詫び〉にみるイギリス人とアメリカ人の言語行動」『言語  
行動論報告2』 荻野綱男編
12. 柳田国男 (1969)「毎日の言葉」『定本柳田国男集』19 筑摩書房
13. 山内良子 (1986)「動詞〈すむ〉の語史」『日本文学ノート』第21号 宮城学院女子大学日  
本文学会
14. 山梨正明 (1986)『発話行為』新英文法選書12 大修館
15. Barnlund, D. C. and Miho Yoshioka(1990) "Apologies: Japanese and American Styles."  
*International Journal of Intercultural Relations* 14: 193-206.
16. Benedict, Ruth (1985) *The Chrysanthemum and the Sward*, The first edition by  
American Library, 1946. Tokyo: Tuttle.
17. Coulmas, Florian (1981) " 'Poison to Your Soul' Thanks and Apologies Contrastively  
Viewed," *Conversational Routine*. Ed. Florian Coulmas. The Hague: Mouton.
18. Goffman, Erving (1971) *Relation in Public*, New York: Harper & Row.

## 資料 1. 日本語アンケート用紙

### アンケート

このアンケートは大学生のふだんのことばの使い方について調べるものです。できるだけありのままを答えるようにしてください。

\*\*\*\*\*

年齢： \_\_\_\_\_ 性別： 男 女 (○で囲む)

学部学生 大学院生 (○で囲む) 所属学科 (学類) \_\_\_\_\_ 学年 \_\_\_\_\_

いままで住んだ土地 (都道府県名と住んだ年齢を含む。例えば、福岡県 0-5歳、東京 5-21歳など)

---

#### PART 1

以下のような状況で、あなたは相手に対してどのように感謝したり詫びたり、そのほかの自分の気持ちを表現しますか。できるだけ自然に実際に話すように答えてください。例えば、「あ、すみません」「わーい、ありがとう」「どうも申し訳ありません」などです。もし、何もいわない場合は「無言」と書いてください。質問のような状況が考えられない場合は「不適」と書いてください。

1. 指導教官が「卒論に関係ありそうな論文を見つけたのでコピーしておいたよ」といつてくれた。
2. 締め切り寸前のレポートを男の友人 (気軽に話せるクラスメートのような) に頼んで手伝ってもらい、やっと終わったところだ。この友人の助けなしには間に合わなかっただろう。この友人に。
3. 今月はお小遣い/生活費が足りなくなっていたのを察して、特別にまたくれた父親に対して。
4. すでに指導が進んでいた卒論のテーマを変えたいと告げたところ、指導教官は驚いたが承知してくれた。教官に。

5. いま男の友人に頼んで貸してもらっていた本をなくしてしまったと告げたところだ。どれだけ大切な本だったかは分からないが、この友人に。

6. お父さんが車を特別に一日貸してくれるという。お父さんに同乗してもらって駐車しようとしたら車を傷つけてしまった。お父さんに。

7. レポート締切日になって教官の所へ行き、締め切りを2、3日延ばすのを承知してもらったとき。

8. コーヒーをうっかりこぼして男の友人の無造作に置いていた新聞にたくさんかかってしまった。この友人に。

9. 出かけるとき、ついでに○○ (果物、週刊誌などの気軽に買えるもの) を買って帰るようにお父さんに頼まれたが、うっかり忘れてしまった。すぐには困らないからいいといってくれたお父さんに。

10. 卒論を指導してもらった時間に10分ほど遅れてきたとき、教官に。

11. パーティーでビールを注いでくれた男の友人に。

12. 食事中、お父さんに頼んで塩を取ってもらったとき。

13. エレベーターのなかで指導教官といっしょになった。どの階に行くのかを聞いてボタンを押してくれた教官に。

14. 男の友人が帰省から帰っておみやげ（その地方の銘菓など）をくれた。

15. お父さんが買い物に行ったついでにあなたの好物の〇〇を思いがけず買ってきてくれた。好物を見てお父さんに。

16. 卒論の指導中、指導教官がお茶／コーヒーを入れてすすめてくれた。

17. あなたが病気で寝ているのを知って男の友人が欠席中のノートをぜんぶ貸すといってくれた。この友人に。

18. お父さんが高価な時計を誕生日のプレゼントに買ってくれた。これは実はあなたが内心欲しいと思いつつ高すぎていえなかったものだ。お父さんに。

19. 欲しいカメラがあるが、くわしいことがわからない。そのカメラは置いてないことを知りながら小さな店に入った。店員は、どの店に行けばいいか、どんな点に注意すればいいかなど、親切に教えてくれた。その店員に。

20. 締め切り寸前のレポートを女の友人（気軽に話せるクラスメートのような）に頼んで手伝ってもらい、やっと終わったところだ。この友人の助けなしには間に合わなかっただろう。この友人に。

21. 今月はお小遣い／生活費が足りなくなっていたのを察して、特別にまたくれた母親に対して。

22. 電車の中で棚にあげた荷物を取ろうとして落とし、下の座席に座って寝ていた人の頭を打ってしまった。その人に。

23. いま女の友人に頼んで貸してもらっていた本をなくしてしまったと告げたところだ。どれだけ大切な本だったかは分からないが、この友人に。

24. お母さんが車を特別に一日貸してくれるという。お母さんに同乗してもらって駐車しようとしたら車を傷つけてしまった。お母さんに。

25. たいへん混雑している人混みの中でうっかり足を踏んでしまった人に。

26. コーヒーをうっかりこぼして女の友人の無造作に置いていた新聞にたくさんかかってしまった。この友人に。

27. 出かけるとき、ついでに〇〇（果物、週刊誌などの気軽に買えるもの）を買ってくるようにお母さんに頼まれたが、うっかり忘れてしまった。すぐには困らないからいいといってくれたお母さんに。

28. ひとりでファミリーレストランで食事をしている。ウェイトレスが注文した品をもってきたとき。

29. パーティーでビールを注いでくれた女の友人に。

30. 食事中、お母さんに頼んで塩を取ってもらったとき。

31. 見知らぬ土地の小さな店で道を聞いた。気軽に答えてくれた店のの人に。

32. 女の友人が帰省から帰っておみやげ（その地方の銘菓など）をくれた。

33. お母さんが買物に行ったついでにあなたの好物の〇〇を思いがけず買ってきてくれた。好物を見てお母さんに。

34. うっかり財布を開いてたくさんの硬貨がバラバラ下に落ちてしまった。通行人が立ち止まり拾うのを手伝ってくれた。通行人に。

35. あなたが病気で寝ているのを知って女の友人が欠席中のノートをぜんぶ貸すといってくれた。この友人に。

36. お母さんが高価な時計を誕生日のプレゼントに買ってくれた。これは実はあなたが内心欲しいと思いつつ高すぎていえなかったものだ。お母さんに。

PART 2

以下のような状況のとき、あなたは下記のAからFまでのなかのどれにいちばん近い気持ちをもちますか。

- A = 強い感謝の気持ち
- B = やや感謝の気持ち
- C = とくに感謝や詫びの気持ちはないが、あいさつとしてなにか表したい
- D = やや詫びの気持ち
- E = 強い詫びの気持ち
- F = その他

該当すると思われるものには、いくつでも〇をつけてくださいですが、各問に必ずひとつは〇をつけてください。

Fの場合は、例のようにどんな気持ちかを書いてください。

(例) A B C D E **F**  
相手が悪いと思う

- A = 強い感謝の気持ち
- B = やや感謝の気持ち
- C = とくに感謝や詫びの気持ちはないが、あいさつとしてなにか表したい
- D = やや詫びの気持ち
- E = 強い詫びの気持ち
- F = その他

1. 指導教官が「卒論に関係ありそうな論文を見つけたのでコピーしておいたよ」といってくれた。 ABCDEF

2. 締め切り寸前のレポートを男の友人（気軽に話せるクラスメートのような）に頼んで手伝ってもらい、やっと終わったところだ。この友人の助けなしには間に合わなかっただろう。この友人に。 ABCDEF

3. 今月はお小遣い／生活費が足りなくなっていたのを察して、特別にまたくれた父親に対して。 ABCDEF

4. すでに指導が進んでいた卒論のテーマを変えたいと告げたところ、指導教官は驚いたが承知してくれた。教官に。 ABCDEF

5. いま男の友人に頼んで貸してもらっていた本をなくしてしまったと告げたところだ。どれだけ大切な本だったかは分からないが、この友人に。 ABCDEF

6. お父さんが車を特別に一日貸してくれるという。お父さんに同乗してもらって駐車しようとしたら車を傷つけてしまった。お父さんに。 ABCDEF

7. レポート締切日になって教官の所へ行き、締め切りを2、3日延ばすのを承知してもらったとき。 ABCDEF

8. コーヒーをうっかりこぼして男の友人の無造作に置いていた新聞にたぐさんかかってしまった。この友人に。 ABCDEF

9. 出かけるとき、ついでに〇〇（果物、週刊誌などの気軽に買えるもの）を買ってくるようにお父さんに頼まれたが、うっかり忘れてしまった。すぐには困らないからいいといってくれたお父さんに。 ABCDEF

10. 卒論を指導してもらう時間に10分ほど遅れてきたとき、教官に。 ABCDEF

11. パーティーでビールを注いでくれた男の友人に。 ABCDEF

12. 食事中、お父さんに頼んで塩を取ってもらったとき。 ABCDEF

13. エレベーターのなかで指導教官といっしょになった。 ABCDEF



- A = 強い感謝の気持ち
- B = やや感謝の気持ち
- C = とくに感謝や詫びの気持ちはないが、あいさつとしてなにか表したい
- D = やや詫びの気持ち
- E = 強い詫びの気持ち
- F = その他

どの階に行くのかを聞いてボタンを押してくれた教官に。

14. 男の友人が帰省から帰っておみやげ（その地方の銘菓など）をくれた。 ABCDEF

15. お父さんが買物に煎ったついでにあなたの好物の〇〇を思いがけず買ってきてくれた。好物を見てお父さんに。

16. 卒論の指導中、指導教官がお茶／コーヒーを入れてすすめてくれた。 ABCDEF

17. あなたが病気で寝ているのを知って男の友人が欠席中のノートをぜんぶ貸すといってくれた。この友人に。 ABCDEF

18. お父さんが高価な時計を誕生日のプレゼントに買ってくれた。これは実はあなたが内心欲しいと思いつつ高すぎたがいえなかったものだ。お父さんに。 ABCDEF

19. 欲しいカメラがあるが、くわしいことがわからない。そのカメラは置いてないことを知りながら小さな店に入った。店員は、どの店に行けばいいか、どんな点に注意すればいいかなど、親切に教えてくれた。その店員に。 ABCDEF

20. 締め切り寸前のレポートを女の友人（気軽に話せるクラスメートのよう）に頼んで手伝ってもらい、やっと終わったところだ。この友人の助けなしには間に合わなかっただろう。この友人に。 ABCDEF

21. 今月はお小遣い／生活費が足りなくなっていたのを察して、特別にまたくれた母親に対して。 ABCDEF

22. 電車の中で棚にあげた荷物を取ろうとして落とし、下の座席に座って寝ていた人の頭を打ってしまった。その人に。 ABCDEF

23. いま女の友人に頼んで貸してもらっていた本をなくしてしまったと告げたところだ。どれだけ大切な本だったかは分からないが、この友人に。 ABCDEF

24. お母さんが車を特別に一日貸してくれるという。お母さんに同乗してもらって駐車しようとしたら車を傷つけてしまった。お母さんに。 ABCDEF

- A = 強い感謝の気持ち
- B = やや感謝の気持ち
- C = とくに感謝や詫びの気持ちはないが、あいさつとしてなにか表したい
- D = やや詫びの気持ち
- E = 強い詫びの気持ち
- F = その他

25. たいへん混雑している人混みの中でうっかり足を踏んでしまった人に。 ABCDEF

26. コーヒーをうっかりこぼして女の友人の無造作に置いていた新聞にたくさんかかってしまった。この友人に。 ABCDEF

27. 出かけるとき、ついでに〇〇（果物、週刊誌などの気軽に買えるもの）を買ってくるようにお母さんに頼まれたが、うっかり忘れてしまった。すぐには困らないからいいといってくれたお母さんに。 ABCDEF

28. ひとりでファミリーレストランで食事をしている。ウェイトレスが注文した品をもってきたとき。 ABCDEF

29. パーティーでビールを注いでくれた女の友人に。 ABCDEF

30. 食事中、お母さんに頼んで塩を取ってもらったとき。 ABCDEF

31. 見知らぬ土地の小さな店で道を聞いた。気軽に答えてくれた店の人に。 ABCDEF

32. 女の友人が帰省から帰っておみやげ（その地方の銘菓など）をくれた。 ABCDEF

33. お母さんが買物に行ったついでにあなたの好物の〇〇を思いがけず買ってきてくれた。好物を見てお母さんに。 ABCDEF

34. うっかり財布を開いてたぐさんの硬貨がバラバラ下に落ちてしまった。通行人が立ち止まり拾うのを手伝ってくれた。通行人に。 ABCDEF

35. あなたが病気で寝ているのを知って女の友人が欠席中のノートをぜんぶ貸すといってくれた。この友人に。 ABCDEF

36. お母さんが高価な時計を誕生日のプレゼントに買ってくれた。これは実はあなたが内心欲しいと思いつつ高すぎたがいえなかったものだ。お母さんに。 ABCDEF

\*\*\*\*\*

ご協力たいへんありがとうございました。このアンケートに関する御意見などありましたら、この紙の裏面にご自由にお書きください。

資料2. アンケート回答のなかの慣用的感謝表現と慣用的詫び表現のリスト

(数字は出現数。カッコ内は男女の内訳)

<日本語の慣用的感謝表現とそのバリエーション>

ありがとうございます=198 (83 : 115)  
 ありがとう=121 (59 : 62)  
 ありがとうございます=1 (0 : 1)  
 ありがとうございます=1 (1 : 0)  
 ありがとうございます=1 (0 : 1)  
 ありがとうございます=1 (0 : 1)  
 ありがとう=3 (0 : 3)  
 ありがとうございます=1 (0 : 1)  
 ありがとう=1 (1 : 0)  
 ありがとう=1 (0 : 1)  
 ありがとう=82 (21 : 61)  
 ありがとう=105 (34 : 71)  
 ありがとう=2 (2 : 0)  
 ありがとう=1 (0 : 1)  
 ありがとう=2 (1 : 1)  
 ありがとう=1 (0 : 1)  
 ありがとう=1 (0 : 1)  
 ありがとう=1 (0 : 1)  
 ありがとう=2 (0 : 2)  
 ありがとう=6 (1 : 5)  
 ありがとう=1 (0 : 1)  
 ありがとう=1 (0 : 1)  
 ありがとう=1 (0 : 1)  
 ありがとう=1 (0 : 1)  
 ありがとう=1 (0 : 1)  
 ありがとう=1 (0 : 1)

ありがとう=901 (368 : 533)

ありがとう=168 (56 : 112)  
 ありがとう=59 (23 : 36)  
 ありがとう=21 (4 : 17)  
 ありがとう=8 (4 : 4)  
 ありがとう=4 (2 : 2)  
 ありがとう=1 (1 : 1)  
 ありがとう=1 (0 : 1) (注3)  
 ありがとう=1 (0 : 1)  
 ありがとう=1 (0 : 1)  
 ありがとう=4 (2 : 2)

いつも  
 申しせつに  
 ほんとうにどうも  
 ほんとうにどうも  
 ほんとうにほんとうにどうも  
 ほんと  
 いつも  
 ほんとうにほんとうに  
 ほんとうに  
 ★ほんま  
 どうも  
 ほんとうに  
 ほんと  
 ほんとうに  
 ほんとに  
 どうも  
 ほんと  
 ほんとう  
 ★わざわざ  
 サンキュー=96 (70 : 26)  
 thank you=30 (13 : 17) (注4)  
 thanks=7 (6 : 1)  
 thanks a lot=1 (1 : 0)  
 サンキュー=8 (0 : 8)  
 サンクスです=2 (2 : 0)  
 かんしゃ=4 (0 : 4)  
 かんしゃします=2 (0 : 2)  
 かんしゃするよ=2 (2 : 0)  
 かんしゃしてるよ=2 (0 : 2)  
 かんしゃかんげき=2 (2 : 0)  
 かんしゃ=2 (0 : 2)  
 かんしゃ=2 (1 : 1)  
 もうだい  
 かんしゃ

かんしゃ かんしゃだよ=2 (2:0)  
 ほんとうに かんしゃします=1 (0:1)  
 もうほんとうに かんしゃしてます=1 (0:1)

<日本語の慣用的詫び表現とそのバリエーション>

ほんとうに もうしわけありません=79 (27:52)  
 どうも もうしわけありません=19 (7:12)  
 たいへん もうしわけありません=9 (4:5)  
 わざわざ もうしわけありません=2 (1:1)  
 もうしわけありません=1 (0:1)  
 もうしわけありませんね=1 (1:0)  
 もうしわけありませんでした=17 (6:11)  
 たいへん もうしわけありませんでした=1 (1:0)  
 どうも もうしわけありませんでした=4 (1:3)  
 ほんとうに もうしわけありませんでした=1 (0:1)  
 もうしわけございません=12 (8:4)  
 どうも もうしわけございません=2 (1:1)  
 まことに もうしわけございません=1 (0:1)  
 どうも もうしわけございませんでした=1 (0:1)  
 もうしわけないです=4 (4:0)  
 なんだか もうしわけないです=1 (1:0)  
 ほんとうに もうしわけないです=1 (1:0)  
 ほんとうに もうしわけない=12 (8:4)  
 わざわざ もうしわけない=1 (1:0)

すみません=276 (76:200)  
 どうも すみません=113 (41:71)  
 ほんとうに すみません=6 (1:5)  
 ほんとに すみません=1 (0:1)  
 わざわざ すみません=3 (2:1)  
 なんか すみません=1 (1:0)  
 ほんとうに どうも すみませんほんとに=1 (1:0)  
 すみません=3 (1:2)  
 すみませんでした=9 (3:6)  
 どうも すみませんでした=10 (3:7)  
 ほんとうに すみませんでした=1 (0:1)  
 ほんとに どうも すみませんでした= (1:0)  
 すいません=225 (136:89)  
 どうも すいません=106 (70:36)  
 ほんとうに すいません=6 (2:4)  
 ほんとに すいません=1 (1:0)  
 わざわざ すいません= (2:2)

いっつも すいません=1 (1:0)  
 いつも すいません=1 (1:0)  
 いつもいっつも すいません=1 (1:0)  
 わざわざ どうも すいません=3 (2:1)  
 なんかわざわざ すいません=1 (0:1)  
 ほんとうに どうも すいません=3 (0:3)  
 どうも すいませんね=1 (0:1)  
 すいませんねわざわざ=1 (1:0)  
 すんません=3 (0:3)  
 どうも すんません=1 (1:0)  
 すいませんでした=9 (4:5)  
 どうも すいませんでした=16 (14:2)  
 ほんとうに すいませんでした=1 (1:0)  
 ごしんせつに どうも すいませんでした=1 (1:0)  
 ほんとうに どうも すいませんでした=1 (1:0)  
 すんません=3 (3:0)  
 すまん=4 (4:0)  
 すまんね=3 (3:0)  
 すまんな=1 (1:0)

ごめんなさい=265 (79:186)  
 ほんとうに ごめんなさい=33 (8:27)  
 ほんとに ごめんなさい=4 (1:3)  
 ほんとうに ほんとうに ごめんなさい=1 (0:1)  
 ごめんなさいね=1 (0:1)  
 いっつも ごめんなさいね=1 (0:1)  
 ごめん=279 (154:125)  
 ほんとうに ごめん=21 (14:7)  
 ごめん ごめん=19 (10:9)  
 ほんとに ごめん=5 (2:3)  
 ほんとに ごめん=3 (0:3)  
 ほんとうに ごめん=1 (0:1)  
 ★ほんまに ごめん=1 (0:1)  
 ★ほんまに ごめん=2 (1:1)  
 ごめんごめん ごめん=1 (0:1)  
 ごめんね=163 (31:132)  
 ほんとうに ごめんね=30 (4:26)  
 ほんとに ごめんね=9 (0:9)  
 ほんとに ごめんね=4 (1:3)  
 いっつも ごめんね=2 (0:2)  
 ごめんねほんとうに=2 (1:1)  
 ごめんねほんとに=2 (0:2)

ごめんねほんと=2 (0:1) ●  
 いつもいつも ごめんね=1 (0:1)  
 ★ほんま ごめんな=14 (10:4)  
 ほんとうに ごめんな=1 (0:1)  
 わるい=18 (12:6)  
 わるいね=30 (23:7)  
 ほんとうに わるいね=2 (2:0)  
 わるいな=5 (5:0)  
 ほんとうに わるいな=1 (1:0)  
 わるいわ=1 (0:1)  
 わるい わるい=4 (4:0)  
 わるかった=3 (2:1)  
 わるかったね=8 (6:2)  
 わるかったな=1 (1:0)  
 わりい=29 (29:0)  
 わりい わりい=3 (3:0)  
 すごい わりい=1 (1:0)  
 わりいね=12 (12:0)  
 ほんとうに わりいね=2 (2:0)  
 わりいな=9 (9:0)  
 ゆるして=20 (7:13)  
 ゆるしてね=2 (1:1)  
 ゆるしてくれる=1 (0:1)  
 ゆるしてくれ=1 (1:0)  
 どうか ゆるしてください=1 (0:1)

〈「どうも」類〉

どうも=159 (93:66)  
 どうも どうも=10 (9:1)  
 どうもどうも どうも=1 (1:0)  
 こりゃ どうも=4 (4:0)  
 どうもです=3 (3:0)  
 どうもでした=1 (1:0)  
 どうもね=1 (0:1)  
 ほんとうに どうもね=1 (0:1)

★は関西出身者のみに現れた表現

〈英語の慣用的感謝表現とそのバリエーション〉

(数字は出現数。カッコ内は男女の内訳)

Thank you.=392 (111:281)	Thanks.=596 (168:428)
Kyu. (Thank you.の略)=2 (2:0)	Many thanks.=2 (0:2)
	Thanks a lot.=160 (42:118)
Thank you very much.=155 (35:120)	Thanks very much.=150 (52:98)
Thank you so much.=18 (0:18)	Thanks so much.=20 (0:20)
Thank you ever so much.=19 (1:18)	Thanks ever so much.=27 (2:25)
Thank you very much Indeed.=2 (1:1)	Thanks a million.=8 (2:6)
	Thanks loads.=2 (0:2)
	Thanks an awful lot.=2 (0:2)
Ta.=28 (14:14)	Thanks so so much.=2 (0:2)
Cheers.=49 (20:29)	Thanks ever such a lot.=2 (0:2)

〈英語の慣用的詫び表現とそのバリエーション〉

I'm sorry.=167 (37:130)	Sorry.=281 (95:186)
I'm really sorry.=153 (30:123)	Really sorry.=2 (0:2)
I'm so sorry.=42 (7:35)	
I'm terribly sorry.=18 (3:15)	Excuse me.=19 (14:5)
I'm very sorry.=16 (7:9)	Please excuse me.=1 (1:0)
I'm awfully sorry.=5 (1:4)	
I'm dreadfully sorry.=2 (0:2)	I really apologize.=1 (1:0)
I'm dead sorry.=1 (1:0)	
I'm really really sorry.=21 (1:20)	
I'm ever so sorry.=5 (0:5)	
I'm so so sorry.=5 (0:5)	
I really am so very sorry.=2 (0:2)	
I'm sorry, I really am.=1 (0:1)	
I'm really really sorry, honestly I really am.=1 (0:1)	